

[分 類] 普及技術

[成果名] もものコスカシバ防除にフェニックスフロアブルの樹幹散布が有効である

[要 約] もものコスカシバ防除にフェニックスフロアブルの 200 倍液を、地上 1 m 位までの樹幹及び主枝の被害部に手散布する。蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。

[担 当] 果樹試験場 環境部

[部 会] 病虫部会

## 1 背景・ねらい

もものコスカシバは、幼虫が幹や枝の樹皮下を食害する害虫である。加害された樹は形成層を食害されるため、樹勢が衰弱する。樹皮が荒れ、さらなる寄生を受けやすくなり、被害が増加すると枯死する場合もある。

平成 23 年 7 月に本剤の 200 倍液樹幹散布が登録拡大された。展葉する前に散布するため樹体への散布を行いやすく、さらに開花前に処理できることから労力競合も避けられ、樹体に寄生するコスカシバを効率的に防除できることが利点である。

そこでコスカシバに対する防除効果を平成 22 年及び 23 年に確認したところ、高い防除効果が認められたため、今回普及技術とした。

## 2 成果の内容・特徴

- (1) もものコスカシバ防除にフェニックスフロアブルの 200 倍液を、地際部から地上 1 m 位までの樹幹及び主枝に薬液が滴る程度に手散布する。

### 農薬登録内容

フェニックスフロアブル

[一般名及び成分含量] フルベンジアミド 18%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] B 類相当

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 23 年 9 月 26 日 JPP ネット確認) ]

作物名	適 用 害 虫	希積 倍数	散布液量 リットル/10 a	使用時期	本剤及びフルベン ジアミドを含む 農薬の総使用回数	使用方法
も も	コ ス カ シ バ	200	5 ～ 40	開花期 まで	3 回以内	樹幹部及び 主枝に散布
	ハマキムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 ケ ム シ 類 コ ス カ シ バ	4,000	200～700	収穫前日 まで	(但し、樹幹散布 は 1 回以内、散布 は 2 回以内)	散 布

## 3 利用上の留意点

- (1) 200 倍の樹幹散布は使用時期が開花期までなので注意する。
- (2) 本剤は筋肉組織に作用して収縮を引き起こし、摂食が停止して餓死する。
- (3) 卵に対して効果はないが、ふ化幼虫に効果が高い。
- (4) 浸透移行性がないため、地際部から地上 1 m 位までの樹幹及び主枝に薬液が滴る程度に手散布する。
- (5) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。
- (6) 水産動物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養魚池などに飛散、流入しないように注意する。

## 4 対象範囲

県下全域

## 5 具体的データ

### (1) コスカシバに対する防除効果

ア 平成22年の試験では、フェニックスフロアブル200倍液の樹幹散布はコスカシバに対して高い防除効果が認められた(表1)。

表1 もものコスカシバに対するフェニックスフロアブルの防除効果(平成22年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈倍数	虫ふん排出孔数(羽化殻数)						合計 <sup>※1</sup>	薬害
		処理直前	処理43日後	処理76日後	処理106日後	処理139日後	処理170日後		
フェニックスフロアブル	200	85 (0)	53 (0)	43 (0)	7 (1)	7 (1)	1 (1)	111 (3)	なし
無処理	—	97 (0)	94 (0)	82 (0)	28 (2)	33 (18)	44 (5)	281 (25)	

※1:処理直前の数値を含まない。

試験方法:須坂市村山現地ほ場。発生程度は多発生。供試樹は「ワッサー」主幹形成木(90本/10a)。1区1樹5反復。平成22年4月13日(開花始め)にハンドスプレーを用いて十分量(1樹当たり約200ml)の薬液を地上高1mまでの樹幹部に散布した。展着剤は加用しなかった。

調査方法:平成22年5月13日(処理直前)、5月26日(処理43日後)、6月28日(処理76日後)、7月28日(処理106日後)、8月30日(処理139日後)及び9月30日(処理170日後)に供試樹の主幹を高さおよそ1mまで観察し、5区合計で虫糞の排泄痕数及び羽化殻数を計数した。なお、処理直前に虫糞及びヤニを除去し、各調査時の計数後にも虫糞及び羽化殻を除去した。薬害は肉眼により観察した。

イ 平成23年の試験では、フェニックスフロアブル200倍液の樹幹散布はコスカシバに対して高い防除効果が認められた(表2)。

表2 もものコスカシバに対するフェニックスフロアブルの防除効果(平成23年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈倍数	虫ふん排出孔数(羽化殻数)					合計 <sup>※1</sup>	薬害
		処理直前	処理42日後	処理74日後	処理106日後	処理139日後		
フェニックスフロアブル	200	74 (0)	9 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	14 (0)	なし
無処理	—	71 (0)	37 (0)	25 (1)	20 (0)	13 (2)	95 (3)	

※1:処理直前の数値を含まない。

試験方法:須坂市村山現地ほ場(平成22年試験とは異なるほ場)。発生程度は中発生。供試樹は「ワッサー」主幹形成木(90本/10a)。1区1樹5反復。平成23年4月14日(開花直前)にハンドスプレーを用いて十分量(1樹当たり約200ml)の薬液を地上高1mまでの樹幹部に散布した。展着剤は加用しなかった。

調査方法:平成23年4月14日(処理直前)、5月26日(処理42日後)、6月27日(処理74日後)、7月29日(処理106日後)及び8月31日(処理139日後)に供試樹の主幹を高さおよそ1mまで観察し、5区合計で虫糞の排泄痕数及び羽化殻数を計数した。なお、処理直前に虫糞及びヤニを除去し、各調査時の計数後にも虫糞及び羽化殻を除去した。薬害は肉眼により観察した。

### (2) ももに対する薬害

いずれの試験においても、散布樹の葉及び果実に対する薬害は認められなかった。

## 6 その他特記事項

[公開]制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の新規農薬等の効果試験、平成22~23年度(2010~2011年度)、民間受託